

3. 1.3 長崎県の活動報告

健康生きがいつくり長崎県協議会

1. 事業概要

(1) 事業の目的

東日本大震災で被災され、長崎県に避難された方の新しいたまり場作り、又、これらの支援事業を他の関係団体とも連携して、適切に行うこと。

(2) 実施体制、他団体との連携、他地域との連携状況

健康生きがいつくり長崎県協議会全員が主体となって、「長崎県東日本災害緊急支援室」、「長崎市安全安心課」、「長崎ソカイネットワーク」、「長崎・東日本大震災こども支援事業実行委員会」、「NPO法人大地といのちの会」と連携。
他地域との連携では、「JAふくしま農産物直売所」との連携。

(3) 事業の実施内容

① たまり場につなげるための「手作りパン教室」の実施

日程：平成24年10月～平成25年3月

対象：東日本大震災と福島第一原発の影響から長崎に避難されている方

趣旨：避難されている方に、手作り

パン教室を体験してもらい、
焼き上がりの香ばしい匂いと
食べる人たちの笑顔に出会う
ことができ、そして、新しい
たまり場を提供したい。



第1回は 10月27日(土) 午後1時～4時 実施。

第2回は 11月24日(土) 午後1時～4時 実施。

第3回は 1月9日(土) 午後1時～4時 実施。

第4回は 2月26日(土) 午後1時～4時 実施。

第5回は 3月30日(土) 午後1時～4時 実施。

この教室も新しいたまり場になりつつある。お母さんたちもパン作りは初めての様子だったが、子どもたちは粘土遊びで慣れているのか、上手にまとめあげていた。

また、子どもたちはすぐに仲良しになって調理室を走り回り、ロールパン、あんパン、ソフトプリンと甘い香りに焼き上がったパンに歓声が上がった。

②講演会の開催

日程：平成24年10月～平成25年3月 2回開催

対象：東日本大震災と福島第一原発の影響から長崎に避難されている方
及び長崎県民

会場：長崎県歴史資料博物館 (約140名収容)

講師：NPO法人「大地といのちの会」理事長 吉田俊道氏

内容：講師の吉田先生は、有機農業を通じて、微生物も害虫もすべて私達の生活に欠かせないということを経験し、地球のすべての命は循環していることを伝えて、地域循環型共生社会を築くべく精力的に活動されている。

具体的には

- ・ベランダにプランターを置けば元気野菜が作られる。
- ・発芽した頃から1～2週間で徐々に間引きしながら食べてしまう新芽野菜(スプラウト)づくり。自分で栽培すれば、この高級野菜を収穫直後に食べられる感動体験。
- ・自分で作って食べるという実体験は、想像以上に生きる自信と実感が湧いてくる。
- ・長崎に避難しておられる方には、プランター、元気野菜ができる土などを無料配布する。

第1回は10月4日に実施。参加者は約80名。

長崎新聞社の後援を受け、写真入りで新聞に掲載された。

第2回は3月3日に実施。参加者は88名。

演題「第2弾 元気野菜づくり&元気人間作り」

生ゴミを使った無農薬野菜作りによる食育活動を幼稚園、学校で精力的に活動。ユーモアたっぷりの話の中に生きる本質が盛り込まれて深みのある内容で、すごく楽しくあっという間の2時間だった。

<参加者からの感想>

- ・吉田先生の楽しい話を拝聴し、ワクワクしながらとりかかりました。土の中に生ごみを入れて、何回かかき回すうちに、いつのまにか生ごみがなくなっていてびっくり、見るからに元気そうな立派な土になっていました。それから種をまいて、芽がでてくるのが毎日楽しみになり、初めて芽が出てきた時には本当に感動しました。毎日元気に育ってくれて、食べてみたらとっても美味しくまた感動しました。毎日の元気の素です。
- ・生ごみを再利用し、環境にも優しくエコにもなる。
- ・体験してみたの子供達の素敵な笑顔、納得の体験です。

③長崎東日本大震災こども支援事業に協賛

日程：7月24日（火）～30日（月）6泊7日

対象：福島県いわき市の小学校5～6年生20名程度と引率者2名

内容：ホストファミリー宅へのホームステイ、長崎の小学生とのデイキャンプ、長崎さるく、ペーロン経験など長崎ならではのイベントを実施。

④福島県支援のため「サンフジりんご」の販売会を実施。

福島県支援のため、「サンフジりんご」購入の協力をお願いする。

11月から10kg入り、100箱を目標に注文販売を行った。

各家庭を会員達が、個別訪問して注文をお願いした。

注文実績は、12月上旬で83箱。

2. 事業成果

(1) 事業の成果

- ① 新しく計画した「手づくりパン教室」は、被災者家族の新しいたまり場として、被災者からたいへん感謝された。
- ② 「大地といのちの会」代表、吉田俊道氏の講演会は、長崎に避難されている方はもちろん、参加者には衝撃的感動を与えた。
- ③ 福島りんごの販売は、会員の戸別訪問によって、1箱10kg入りが83箱販売という実績を上げた。

(2) 問題点・課題

被災者の情報を持つ県や市の担当部署にチラシ配布を依頼してもおざなりで、また、被災者の情報を教えてもらうことが叶わず、数少ない避難者を個別訪問もできないもどかしさを痛感した。

(3) 今後の展望

「長崎ソカイネットワーク」と連携して、避難者も含め、高齢者の生きがい活動に農業を取り入れ、高齢者の力で農業を活性化させたい。さらに、介護予防、認知症予防につながる活動も展開したい。